

---

# 死んで花咲く勇者かな

楊二郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死んで花咲く勇者かな

### 【Zコード】

Z7859Y

### 【作者名】

楊一郎

### 【あらすじ】

のび太的存在として「町内でも有名な『僕』は、いじめつことの決闘中、打ちどころが悪くそのまま死んでしまう。だが、偶然にも蘇生した『僕』は、気づかぬままに召喚された異世界で、勇者に祭り上げられてしまう。そして、そんな映画版の『僕』を底上げする為に用意されていたのは、世界の「バグ」を利用したとんでもないLVUPシステムだったのである。

トン。

「えつ？」

突然の、浮遊感。

僕は、宙あくに浮いていた。

それは世界にとつては一瞬のことだったたけれど、  
僕にとつてはとても長くて……、

周りに広がる、色のない山々も、  
僕を囲んでいた山賊達の驚いた顔も、  
僕を崖から突き落とした、その人の姿も、目にしつかりと焼き付いてしまつて。

胸でつかつ。

その異常に隆起したおっぱいをガン見しながら、

僕の体は、自由落下を始めた。

「 。」

そこからば、よく覚えていない。

僕は落下の恐怖で、氣を失つてしまつたらじい。

そして当たり前だけど、

崖の下に落ちて、

死んだ。

それが、異世界召喚された、一日田の「ことである。

中学3年、卒業式。

気の早い桜が咲き始めた、3月10日。

僕は大の字に倒されていた。

「うう……」

ほほが、痛い。

頭がふらふらする。

僕の頭は、ちやんとついているのか……？

「てめえ、火野……」

凄みのある声が遠くから、落ちてくる。

立つんだ

「うう、くつ……」

サボるうつとする体を持ち上げて、僕は立ちあがる。

対峙する先には、茶髪の大柄な同級生。たつた今、僕を殴り飛ばした相手。

僕を『いじめ』の対象としてきた、不良だ。

「野火の癪に俺に逆らおうなんて、生意氣なんだよ。」

いつものように、威圧的に僕を睨みながら、そいつはせつてへくる。

嵐が過ぎ去るのを黙つて、耐えるだけだった。

それは昨日までの僕。

田をやひしちや、ダメだ。

僕は大丈夫だつて、

それを、証明するために僕は、ここにいる。

青い僕の猫に、それを示すために。

「高田」、たかだ――――――！」

叫ぶ。  
目を、開くんだ。

僕は、お前には負けないって。

גָּדְעָן וְעַמְּקָמָן

ズンつ。

「...、ハセヨウ...」

腹を、  
突き上げられる。

「…てめえは俺のパシリなんだよ。これからもな。」

## 支配の主張。 僕の答えは……。

「……だつ」

「……あん?」

「コソッ。

僕の拳が、高田の肩に当たる。

「……いやだ。」

「……止めえ。」

その後は、ひどかつた。  
こんなに殴られたのは、初めてで。  
痛くて、痛くて、痛くて、痛くて…  
でも、胸の真ん中は涼しくて。

「なんで、笑ってやがる。」

だつて、僕はすでに、勝っているんだ。

卒業式の後、校舎裏に「いじめっ」を呼び出して、『いやだ』と主張  
できた。

だから、他の人がなんと言おうと、  
この決闘は、僕の勝ちなんだ。

「ふつ、へつ、ぶつへ、ぐふつへ……。」

ホントは大声で笑いたいのに、肺が痛くて、へんな笑い声になる。

ゴツ。

「……あつ。」

今度こそ、僕の頭が、飛んでしまった。

それを追つするように体が、『ゴロゴロ』と転がり、視界が灰色になる。

「…………！」

どこかで誰かの叫び声。

体が、冷たい。

おかしいな、さつきまであんなに熱かったのに。

それに、ひどく眠い……。

ああ、寝てしまえば楽なんだろうか……。

どうせ明日から、『あの人』はいないんだから……。

違う。

違うんだ。

僕は『あの人』がいないから、強くなろうと……。

ここで逝つては……。

。

だれが……。

「…………！」

突然、視界に色が戻る。

その色は……、金色！？

「あつ…………、えつ？」

僕の胸の上に、金色の球が浮いている。

そして球の中心には、僕のお守りが、クルクルと回っている。

「…………これ。」

手を伸ばそうとしたけど、体はすこしも動かない。

やがて、その金色の球は大きくなり……

「火野…………！」

僕は光に飲み込まれた。

…………。

『おい、% % \$ & amp; - ) (。』

『なんだ、< + ^ 、 ^ ^ + ? = 。』

『こつちにまた異物が流れ込んだぞ。』

『そうか。だが人間がやつたことだ、私は関与せん。』

『またそれか。お前が作ったものの責任くらい、取つたらどうだ。』

『そう、うるさいことを言うな。\$ ^ @おじつてやるから。』

『ちつ。じゃあ、それで手を打つておくか。』

『しかし、どうも中間点に死体が残つたようだな。』

『世界横断中に死ぬなんて、器用な奴だな。』

『そつちに飛ばしとくぞ。』

『なつ、ちょっととまて。』

『飛ばした。』

『おい！なに勝手にこつちに押しつけてんだよ。』

『魂もそつちにあるんだ、これが自然だらう。……おやつ、きれいに入つた。』

『うお、マジか。……きれいに魂と重なつてやがる。ありやあ、生き

返つたな。』

『ふう。では、そういうことによろしく。』

『おい。\$ゝ@はどうした。』

『くつ、覚えていたか。しょうがない、いつものところでよいかな？』

『ああ、いいぜ。』

.....。

てつててつ、てんてくん

火野 壮太はレベルがあがつた！

火野 壮太のちからが9あがつた！

火野 壮太のたいりょくが5あがつた！

火野 壮太のすばやさが4あがつた！

火野 壮太のさいだいＨＰが25あがつた！

火野 壮太は「ふあいあぼると」をおぼえた！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7859y/>

---

死んで花咲く勇者かな

2011年11月23日13時45分発行